

各 位

会社名	石油資源開発株式会社		
代表者名	代表取締役社長 岡田 秀一		
コード番号	1662		
問合せ責任者	広報 IR 部長	中本 亮一	
電話番号	03-6268-7110		

**福島県・相馬港における天然ガス火力発電事業の事業化決定  
ならびに本事業への新たなパートナーの参画について**

石油資源開発株式会社（以下「当社」）は、三井物産株式会社との共同出資で設立した福島ガス発電株式会社（以下「FGP」）を通じて検討および諸手続きを進めていた福島県・相馬港（福島県相馬郡新地町）における天然ガス火力発電事業（以下「本事業」）について、本日開催されたFGPの株主総会において、本事業の事業化の決定、ならびにFGP設立時の株主である当社および三井物産株式会社の2社に加え、大阪ガス株式会社、三菱ガス化学株式会社、北海道電力株式会社の3社が新たにFGPに出資し事業パートナーとして本事業に参画することが決議されましたので、お知らせいたします。

当社は、現在相馬港で建設を進めている相馬LNG基地とその隣接地のさらなる有効活用を図るとともに、電力の安定供給や、震災からの復興を目指す同基地周辺地域の経済活性化などへの貢献を目的に、本事業の実現に向けた検討および環境影響評価法にもとづく諸手続き（以下「環境アセスメント」）を、FGPを通じて進めてきました。そしてこのたび、FGPが本事業の基盤となる「相馬港天然ガス火力発電所（仮称）」（以下「本発電所」）について、環境アセスメントなどの手続きが終了し次第建設を開始することと、建設に係る事前準備への着手を決定するとともに、発電の燃料となるLNGの調達や発電への知見を持つ3社の参画により、事業推進体制を強化することとなりました。今後はFGPを主体とし、当社を含む事業パートナー5社が連携し、本事業を推進していきます。

本発電所は、天然ガスを燃料とする59万kWのコンバインドサイクル方式発電設備2基で構成されます。またFGPは、隣接する当社相馬LNG基地（建設中、2018年3月操業開始予定）敷地内へ、新たな23万キロリットル級地上式LNG貯蔵タンク1基およびLNG気化装置の建設を計画しており、その建設管理と運用、およびLNGの気化と天然ガスの供給に係る業務を、当社がFGPより受託する予定です。今後は、FGPが環境アセスメントのプロセスを引き続き進めるとともに、施工会社との契約などを行い、2017年夏頃を見込む環境アセスメントなどの手続き終了後のすみやかな着工と、2020年春の商業運転開始を目指していきます。

本発電所の計画は、「経済財政運営と改革の基本方針（2014年6月閣議決定）」に盛り込まれた、「福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想」（以下「本構想」）において、「新たなエネルギーの創出（環境負荷の低いエネルギーの導入）」プロジェクトに位置づけられています。本構想が目指す、福島県浜通り地域の産業基盤の再構築、新たなまちづくりなどへも、貢献していきます。

本発電所の概要、および新たな事業パートナーとその出資比率を含む本日時点のFGPの会社概要については、本日公表のFGPならびに事業パートナー5社によるプレスリリース（別紙）を参照ください。

本件の平成29（2017）年3月期の当社連結業績への影響は軽微です。また、本件の平成30（2018）年3月期以降の当社連結業績への影響については、判明し次第、都度適切に開示します。

当社は、平成27（2015）年5月に公表した「長期経営ビジョンおよび中期事業計画」で掲げる「石油・天然ガスE&P事業を軸とする総合エネルギー企業への転換」を目指し、本事業を含むエネルギーの安定供給を使命とする当社の事業、そして事業を通じた地域社会への貢献を、これからも推進していきます。

以 上

2016年10月11日

報道関係各位

福島ガス発電株式会社  
石油資源開発株式会社  
三井物産株式会社  
大阪ガス株式会社  
三菱ガス化学株式会社  
北海道電力株式会社

**福島県・相馬港における天然ガス火力発電事業の事業化決定  
ならびに本事業への新たな事業パートナーの参画について**

福島ガス発電株式会社（以下「FGP」）は、本日開催した株主総会において、検討および諸手続きを進めていた福島県・相馬港（福島県相馬郡新地町）における天然ガス火力発電事業（以下「本事業」）の事業化の決定と、FGP 設立時の株主である石油資源開発株式会社（以下「JAPEX」）ならびに三井物産株式会社の 2 社に加え、大阪ガス株式会社、三菱ガス化学株式会社、北海道電力株式会社の 3 社が新たに FGP に出資し、事業パートナーとして本事業に参画することを決議しましたので、お知らせいたします。

FGP は、電力の安定供給や震災からの復興を目指す福島県浜通り地域の経済の活性化への貢献などを目的に、本事業の実現に向けた検討と環境影響評価法にもとづく諸手続き（以下「環境アセスメント」）を進めています。そしてこのたび、本事業の基盤となる「相馬港天然ガス火力発電所（仮称）」（以下「本発電所」）について、環境アセスメントなどの手続きが終了し次第建設を開始することと、建設に係る事前準備への着手を決定するとともに、発電の燃料となる LNG の調達や発電への知見を持つ 3 社の参画により、事業推進体制を強化することとなりました。今後は FGP が主体となり、事業パートナー 5 社とともに、本事業を推進していきます。

本発電所は、天然ガスを燃料とする 59 万 kW のコンバインドサイクル方式発電設備 2 基で構成されます。また、隣接する JAPEX 相馬 LNG 基地（建設中、2018 年 3 月操業開始予定）敷地内へ、新たな 23 万キロリットル級地上式 LNG 貯蔵タンク 1 基および LNG 気化装置の建設を計画しており、その建設管理と運用、および LNG の気化と天然ガスの供給を、JAPEX に委託する予定です。今後は、環境アセスメントを引き続き進めるとともに、施工会社との契約などを行い、2017 年夏頃を見込む環境アセスメントなどの手続き終了後のすみやかな着工と、2020 年春の商業運転開始を目指していきます。

本発電所の計画は、「経済財政運営と改革の基本方針（2014 年 6 月閣議決定）」に盛り込まれた、「福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想」（以下「本構想」）において、「新たなエネルギーの創出（環境負荷の低いエネルギーの導入）」プロジェクトに位置づけられています。本構想が目指す、福島県浜通り地域の産業基盤の再構築、新たなまちづくりなどへも、貢献していきます。

本発電所の概要、および新たな事業パートナーとその出資比率を含む本日時点の FGP の会社概要については、別紙を参照ください。

FGP ならびに事業パートナー 5 社は、電力全面自由化や CO2 排出削減などの市場環境の変化を踏まえ、低廉で環境負荷の低い電力の安定供給と、発電所周辺地域の経済や産業の発展への貢献を目指して、本事業を進めてまいります。

以上

<本件に関する報道関係お問い合わせ先>

(本発電事業全般のお問い合わせ先)

福島ガス発電株式会社 総務部

Tel: 03-6268-7390

石油資源開発株式会社 広報 IR 部

Tel: 03-6268-7110

(本発電事業に係る事業パートナー各社のお問い合わせ先)

石油資源開発株式会社 広報 IR 部

Tel: 03-6268-7110

三井物産株式会社 広報部 報道室

Tel: 03-3285-7596

大阪ガス株式会社 広報部 報道チーム

Tel: 06-6205-4515

三菱ガス化学株式会社 広報 IR 部

Tel: 03-3283-5041

北海道電力株式会社 広報部 広報企画グループ

Tel: 011-251-4076

【別紙】

1. 相馬港天然ガス火力発電所（仮称） 概要

名 称	相馬港天然ガス火力発電所（仮称）		
建設予定地	福島県相馬郡新地町 相馬港 4 号埠頭 ※JAPEX 相馬 LNG 基地隣接地		
動力および 発電方式	ガスタービンおよび汽力 (コンバインドサイクル方式)		
燃 料	天然ガス (LNG を気化) ※隣接する JAPEX 相馬 LNG 基地へ LNG の気化と天然ガスの供給を委託予定		
発電規模	118 万 kW (59 万 kW 発電設備×2 基)		
今後の予定	2017 年 夏	建設工事着工	※環境アセスメントなどの手続き終了後
	2019 年 秋	試運転開始	
	2020 年 春	商業運転開始 (59 万 kW)	※118 万 kW 規模は同年夏以降



相馬港天然ガス火力発電所（仮称） 完成イメージ鳥瞰図



建設予定地広域地図

2. 会社概要（2016年10月11日現在）

会 社 名	福島ガス発電株式会社		
本店所在地	東京都千代田区丸の内一丁目 7 番 12 号 サピアタワー 電話 03-6268-7390 (代表)		
設 立 日	2015 年 4 月 23 日		
代 表 者	代表取締役社長 石井 正一 (石油資源開発株式会社 代表取締役副社長) ※株主各社より役員を派遣		
資 本 金	資本金 5.37 億円、資本準備金 5.37 億円		
出資比率	石油資源開発株式会社	33.0%	
	三井物産株式会社	29.0%	
	大阪ガス株式会社	20.0%	
	三菱ガス化学株式会社	9.0%	
	北海道電力株式会社	9.0%	
事業内容	天然ガス火力発電事業の推進		